

(様式4-1) 中間報告説明書

活動①

講座名 公演名	レクチャー&ゼミナール「表現と知が編み直される地点を見る」(全2回)		
講師名 出演者名	講師：①川瀬慈(国立民族学博物館)、石倉敏明(秋田公立美術大学)、成瀬正憲(日知舎)		
日時	①2022年9月30日(金)18時~21時30分	コマ数	【1コマ=60分】 ①3コマ
会場・教室	①プラザハウス Aesthetica	受講者数 入場者数	①受講生8名(連続受講)
活動概要	<p>活動①のレクチャー&ゼミナールでは、全2回を通じて、地域におけるリサーチ型芸術実践の方法論と可能性について、文化人類学、比較文学、文化芸術活動の実践者など分野の専門家を講師に招いて考えます。全2回のレクチャー&ゼミナールのうち、第1回を実施しました。第1回は、全体テーマを「〈中心〉を編み直す」とし、以下の内容で行われました。</p> <p>18:00 - 18:10 趣旨説明 向井 18:10 - 18:40 話題提供① 川瀬「詩想、周遊、土地との交感」 18:40 - 19:10 話題提供② 成瀬「イグジット-ウィズ-オートノミー——自治を片手に離脱する」 19:10 - 19:40 話題提供③ 石倉「神話を編み直す——想像力/物語の再創造に向けて」 19:50 - 21:30 ディスカッション 全員</p> <p>なお、第1回終了後にエッセイの課題を出し、第2回にはその読み合わせとディスカッションを行うこととしています。</p> <p>参加した育成対象者の内訳：フリーランス3名(美術家、写真家、映像作家)、自営業2名(コミュニティスペース運営)、アートマネジメント実務者1名、小学校教員1名、研究者1名</p>		
当初期待した効果とその達成状況	<p>【当初期待した効果】活動①は、広い視野と鋭い問題意識から学術的探究と芸術実践の接点を見出し、それをもとに新たな作品制作や研究プロジェクトの企画立案を行える人材の育成を目的に実施されるものです。受講生は、レクチャーを通して各講師の実践例とその背後にある考え方を理解するほか、講師や連続受講している他の受講生とともにリサーチ型芸術実践のあり方や可能性について議論を行い、より密度の高い学習の機会を得ます。さらに課題としてエッセイを執筆することで、自らの問題意識を言語化し、他者へと伝達するスキルについても学びます。</p> <p>【達成状況】第1回では、レクチャーを通じて各講師の実践例やその背後の考え方について学ぶことができました。ただし、対面とオンラインのハイブリッドで実施したこともあり、それぞれの受講生によってレクチャーの受け止め方にさまざまな濃淡があることも分かりました。特に、ディスカッションでは講師の語る言葉と受講生の語りたこととの間にずれが生じ、議論が十分に深まる前に時間を迎えてしまう状況になりました。以上の課題を解決し、受講生同士や講師との相互理解をより深め、議論を発展させるために、第2回では、エッセイ課題の執筆を前倒して実施し、講師を交えて読み合わせながらディスカッションを行うこととしました。</p>		

活動③

講座名 公演名	プロジェクト (1) 「message in a bottle—島の暮らし。島からの発信。」		
講師名 出演者名	監修：阪田清子（沖縄県立芸術大学准教授） 講師：①～②宮城奈々（織作家）、城間あさみ（映画監督）		
日時	①オリエンテーション 2022年7月23日（土）13時～17時 2022年7月24日（日）9時～12時（宮城）；14時～18時（城間） ②フィールドワーク/インベスティゲーション 2022年8月27日（土）～31日（水）9時～12時（宮城） 2022年8月27日（土）～30日（火）・9月9日（金）14時～17時（城間）	コマ数	【1コマ=60分】 ①3コマ×2（180分×2） ②3コマ×5（180分×5）
会場・教室	沖縄県立芸術大学 一般教育棟 101 教室 フィールドワーク等：沖縄県立博物館・美術館、首里城近辺（那覇市）、那覇市首里、南城市	受講者数 入場者数	受講者数：4名（連続受講）
活動概要	<p>活動③では、地域におけるリサーチ型芸術実践（美術）のモデルケースとして、島／沖縄にクローズアップした多角的なリサーチ展示を制作します。①オリエンテーション及び②フィールドワーク/インベスティゲーションでは、「島／暮らし」をテーマに、信仰・社会・歴史・交易・環境・移民（移住）・観光・労働などの切り口から、以下の日程で、フィールドワーク/インベスティゲーションを行いました。受講生は二つのグループに分かれ、それぞれの講師のもとで受講しています。</p> <p>■テーマ：「身近なところで素材を探して採集する。素材が持つ質感を自分の肌感覚で読み取り、その感覚を再現する」（講師：宮城奈々）</p> <p>・オリエンテーション： 7月23日（土）09:00～12:00 自己紹介プレゼン @沖縄県立芸術大学 7月24日（日）09:00～12:00 繊維素材を用いての観察・実験 @沖縄県立芸術大学</p> <p>・フィールドワーク/インベスティゲーション： 8月27日（土）09:00～12:00 繊維素材の質感を視る（観察する） @沖縄県立博物館・美術館 8月28日（日）09:00～12:00 素材を探す・採集する @首里城近辺（那覇市） 8月29日（月）09:00～12:00 採集した素材を感じ読み取る→触覚、視覚、嗅覚等 @沖縄県立芸術大学 8月30日（火）09:00～12:00 糸を作る @沖縄県立芸術大学 8月31日（水）09:00～12:00 糸で織る又は編む @沖縄県立芸術大学</p> <p>■テーマ：「映像と私の間にたゆたう言の葉をみつけ私の島を創る夏の旅」（講師：城間あさみ）</p> <p>・オリエンテーション： 7月23日（土）14:00～17:00 自己紹介プレゼン @沖縄県立芸術大学 7月24日（日）14:00～17:00 映像制作について @沖縄県立芸術大学</p> <p>・フィールドワーク/インベスティゲーション： 8月27日（土）14:00～17:00 映画鑑賞と感想交流 @沖縄県立芸術大学 8月28日（日）14:00～17:00 映画の言葉探し @沖縄県立芸術大学 8月29日（月）14:00～17:00 フィールドワーク1（命の水と祈りー首里の水） @那覇市首里 8月30日（火）14:00～17:00 フィールドワーク2（命の水と祈りー百名・仲村渠・垣花の水） @南城市 9月9日（水）14:00～17:00 フィールドワーク2日間の考察 ※8月31日台風のため延期して実施。 @沖縄県立芸術大学</p> <p>参加した育成対象者の内訳：フリーランス1名（美術家）、自治体職員1名、本学大学院生2名</p>		
当初期待した効果とその達成状況	<p>【当初期待した効果】活動③は、リサーチ型芸術実践（美術）のモデルケースとして実施するものです。受講生は、監修者と講師のファシリテーションのもと、実際にフィールドワークを行い、そのリサーチの成果を共同で展示・発表することで、リサーチ型芸術実践における問題設定やリサーチの手法、共同的な制作プロセスの課題について実践的に学びます。フィールドワークなどのリサーチ手法を理解し、地域での実践に応用できる人材や、研究と表現の倫理に対する十分な理解のもとに企画に取り組める人材、さらに地域が多様なステークホルダーの関わる場であることを理解し、リフレクティブな姿勢で運営に臨むことができる人材の育成を目指します。</p> <p>【達成状況】4名の受講生が2つのグループに分かれ、2名の講師のフィールドワーク/インベスティゲーションに参加しました。それぞれのフィールドワーク/インベスティゲーションは各講師の専門性に裏打ちされた内容で、受講生は講師の言葉に耳を傾け触発されると同時に、ディスカッションを通じて各自の問題意識を他の参加者と積極的に共有し、共同での展示・発表に向けての下地が形作られました。実際に現場へと赴いて実施したフィールドワークでは、各受講生がそれぞれ植物の素材や土地と水資源の関係性といったテーマに基づいてリサーチを行いました。講師の豊富な経験に基づくガイダンスをもとに、素材としての植物の捉え方や、土地の文化と水との関連性への見方が研ぎ澄まされていくと同時に、実際のリサーチ展示に向けた構想やイメージづくりも進めることができました。ここまでのところ、当初期待した効果は十分に達成できていると考えます。</p>		

活動④

講座名 公演名	プロジェクト (2) 「『複数形』のオキナワを聴く」		
講師名 出演者名	監修：大石始（文筆家・選曲家、旅と祭りの編集プロダクション「B. O. N」主宰） アーティスト・イン・レジデンス：VIDEOTAPEMUSIC（ミュージシャン） ファシリテーター・企画制作：桜井祐（編集者）		
日時	①アーティスト・イン・レジデンス：2022年8月～10月	コマ数	
会場・教室		受講者数 入場者数	
活動概要	<p>活動④では、地域におけるリサーチ型芸術実践（音楽）のモデルケースとして、日本復帰 50 年を迎える沖縄の「音の生活史」に関するリサーチに基づくアーティスト・イン・レジデンス・プログラムを実施し、音楽・映像作品の創作を行います。9月には、9月14日から9月20日にかけて、第1回のアーティスト・イン・レジデンスを実施しました。日程の詳細は下記の通りです。</p> <p>第1回 アーティスト・イン・レジデンス 9月14日（水）滞在制作についての打ち合わせ 9月15日（木）喜納での住民からの聞き取り調査、楚辺集落でのフィールドワーク 9月16日（金）読谷村史編集室・中田耕平氏からの聞き取り調査、大添集落のフィールドワーク、楚辺住民からの聞き取り調査 9月17日（土）沖縄県立図書館での資料調査、Podcast 番組の番組（#1～3）構成・台本の制作の作成及び打ち合わせ 9月18日（日）ポッドキャスト番組（#1～3）の収録 9月19日（月）ゆうぱんた（楚辺）でのフィールドレコーディング、伊良皆での芸能保存関係者からの聞き取り調査、伊良皆公民館での民俗芸能の練習視察 9月20日（火）ポッドキャスト番組#4の収録</p> <p>今後は、下記の予定で講座・作品を配信予定です。 ・ディスカッション（1）：2022年10月（事前収録） 配信は11月中を予定。 ・ディスカッション（2）：2023年3月（事前収録） 配信は3月中を予定。 ・作品の公開：2023年3月（オンライン配信） ・ポッドキャスト番組の配信：2022年10月～ を予定。</p>		
当初期待した効果とその達成状況	<p>【当初期待した効果】活動④は、リサーチ型芸術実践（音楽）のモデルケースとして実施するものです。受講生は、滞在制作を行うアーティストとのディスカッションへの参加を通じて、地域におけるリサーチ型芸術実践における問題設定やリサーチの手法、共同的な制作プロセスの課題について考えます。フィールドワークなどのリサーチ手法を理解し、地域での実践に応用できる人材や、研究と表現の倫理に対する十分な理解と配慮のもとに企画に取り組める人材、さらにリサーチや制作を行うフィールドが多様なステークホルダーの関わる場であることを理解し、リフレクシブな姿勢で実践や運営に臨むことができる人材の育成を目指します。</p> <p>【達成状況】配信する講座のうち、ポッドキャスト番組4編の収録を終え、現在編集作業中です。公開ディスカッションの配信と合わせて、今後、達成状況をご報告いたします。</p>		